

福岡工業大学リカレント教育（履修証明プログラム）

# 2026年度受講生募集

半導体物性及び  
半導体工学  
プログラム (P1)

数理・  
データサイエンス・  
AIプログラム (P2)

環境理工学及び  
環境社会学  
プログラム (P3)

## 受講までのスケジュール

### 1 出願手続き

- ・ 出願方法 下記、出願書類を電話で事前連絡の上、社会連携センターへ提出してください。提出方法はメールに添付、郵送および持参です。
- ・ 出願書類 ① 本学所定の「科目等履修生入学願書（履修証明プログラム）」  
② 本学所定の「科目等履修生履歴書（履修証明プログラム）」  
（写真貼付）
- ・ 検定料 7,500円- 免除
- ・ 出願期間 プログラムによって異なります。  
詳しくは各プログラム詳細をご確認ください。
- ・ その他 詳細は右のQRコードまたはURLより  
ご確認ください。

<https://www.ccc.fit.ac.jp/news/archives/97>



### 2 選考結果の通知を確認する

資格等選考（入学願書・履歴書等の書類審査）により、入学可否を判断します。  
選考結果は出願期間終了後に担当事務局より連絡します。

### 3 履修科目の登録

入学許可者に別途連絡します。

### 4 諸費用を納入する

指定された期間内（入学許可以降で講義開始日から1週間以内）に、  
銀行振込または社会連携センター窓口（現金のみ）にてお支払いください。  
手続きの延期は認められません。また、分納制度はございません。

入学金 50,000円 免除

授業料 プログラムによって異なります。  
詳しくは各プログラム詳細をご確認ください。

その他 授業で利用する教材等で別途料金の負担が必要になることがあります。

※受講後、修了要件を充足した方には、ご本人の申請により  
履修証明書を発行します。（申請方法は別途案内）



■ 福岡工業大学リカレント教育

現代社会においては、急速な技術革新や社会変化に対応するため、継続的な学びが求められています。学び直しの機会提供に加えて、社会全体における知識の更新と技術の進展に対応した人材育成が、高等教育機関の大きな使命の一つです。福岡工業大学は、地域に根差した高等教育機関として、本学が持つ教育リソースや専門的な知見を地域・社会に還元するため、社会人を対象としたリカレント教育（履修証明プログラム）を提供します。

※本プログラムは本学在学生向けの正課授業に参加する形式となっており、在学生とともに受講していただきます。

半導体物性及び半導体工学プログラム (P1)

本プログラムでは、半導体物性、半導体工学等の基礎を学び、半導体やその関連産業で従事する半導体人材養成につなげることを目指します。

提供科目と受講日		受講料	46,500円 ▶ 特別料金 23,250円
●半導体工学（前期）対面講義 毎週水曜日 2時限目（10:40～12:10）  ●電子物性（後期）対面講義 毎週火曜日 1時限目（9:00～10:30）  ●先端デバイス工学（後期）対面講義 毎週木曜日 1時限目（9:00～10:30）	在籍期間	2026年4月～2027年2月（11か月間） ※前期授業開始日 2026年4月3日（金） 後期授業開始日 2026年9月24日（木）	
	授業回数	各科目毎週1回90分間、計15回	
	募集人員	3名	出願期間：2026年1月15日～1月31日まで ※書類必着

提供科目詳細（講義内容等は2025年度のシラバスをもとに掲載しているため、変更となる場合があります）

半導体工学	講義形式		講師	職位
	対面講義：水曜日2時限目		鈴木 恭一	工学部 電気工学科 教授
	概要	講義内容		授業外学習
電子物性	本科目は、コンピュータを始め各種電子電気機器の基盤である半導体について、まず材料自体の基本的性質を理解し、半導体素子の構造およびその動作特性を理解します。さらに電気・光・熱等のエネルギーを加えた場合の半導体の振る舞いを理解します。講義は配布資料と板書により行います。プロジェクトターも使用します。  実務関連：物性物理学の研究所における半導体研究の実務経験を踏まえ、最新の研究動向や最先端の研究方法も含めて講義します。	1. 講義の概要と半導体素子（デバイス）の概要 2. 半導体の結晶構造とエネルギーバンド 3. 真性半導体 4. ドナーとアクセプタ 5. p-n接合 6. バイポーラトランジスタ 7. ここまでのまとめと理解度確認テスト 8. 金属と半導体の接触		9. 金属-絶縁体-半導体（MIS）構造 10. 電界効果トランジスタ 11. 半導体ヘテロ構造 12. 結晶成長、デバイスの作製方法 13. 直接遷移と間接遷移 14. 半導体と光 15. これまでのまとめ、理解度確認テストとその解説
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：火曜日1時限目	※担当講師調整中	工学部 電子情報工学科 教授	
先端デバイス工学	概要	講義内容		授業外学習
	電子物性はデバイス系科目の中の最も基本的な科目であり、電子デバイス、光デバイス、集積回路等の理解に不可欠な科目です。本科目では、原子や電子のミクロな振る舞いが固体のマクロな物性とどのように関係しているかを学びます。基礎事項として固体の成り立ち、原子と電子の状態について学ぶと共に、物性として比熱と熱伝導、電気伝導、光学的性質、磁性、具体的な物質として半導体について学びます。	1. 結晶構造と周期性 2.k空間 3. 量子力学 4. 固体の結合 5. 格子振動 6. 格子比熱と熱伝導 7. 授業のまとめと理解度の確認（1回目） 8. 自由電子論		9. エネルギーバンド 10. バンド理論の応用 11. 電気伝導 12. 光学的性質 13. 磁性 14. 半導体の物理 15. 授業のまとめと理解度の確認（2回目）
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：木曜日1時限目	中村 壮智	工学部 電子情報工学科 准教授	
AIデータサイエンス基礎	概要	講義内容		授業外学習
	現代の情報社会を支える半導体はディスクリート素子としてだけではなくICのように集積化して用いられます。本講義前半ではICの構成素子とその基本構造について学び、それを製作するプロセス（前工程）で用いられる技術についてその概要を理解することを目的とします。後半ではCMOS論理回路とメモリの基本について学び、様々なメモリ素子の原理について学びます。また従来のエレクトロニクスとは異なるテクノロジに基づく、スピントロニクス、量子エレクトロニクス、超伝導エレクトロニクスの一端に触れることを目的とします。	1. 論理回路の設計と複合論理回路 10. メモリ1 11. メモリ2 12. スピントロニクス 13. 量子エレクトロニクス 14. 超伝導エレクトロニクス 15. 後半の理解度確認テスト		1. 授業後に課す課題（宿題）への解答。課題はFIT-AIMを用いて課します。形式等は課題ごとに指示します。解説は次回の講義の初めに行います。2. 講義中に説明しなかった概念については授業外学修（自習）として課題に出題するものがあります。インターネットによる検索や図書館での文献調査を含めた自習を行い課題に取り組んでください。これらの準備には毎週2時間程度を要します。
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：月曜日1時限目	※担当講師調整中	工学部 電子情報工学科 教授	
応用プログラミング	概要	講義内容		授業外学習
	本講義では、Pythonについて学びます。Pythonはデータの可視化を含む高機能なモジュールを利用できる利点から、データ分析や機械学習の分野など近年数多くの分野で利用されています。講義の前半では、まずLinux OSの基礎知識として、基本コマンド、ユーザー管理、ファイル操作、アクセス権の変更などについて学びます。後半では、Linux OS上でPython言語の基礎的な文法、NumPyを用いた計算処理、matplotlibを用いたデータの可視化について学びます。	1.Linuxについて1 2.Linuxについて2 3.Linuxについて3 4.Linuxについて4 5.Linuxについて5 6.理解度（達成度）の確認および解説 7.Pythonの基礎1 8.Pythonの基礎2		9.Pythonの基礎3 10.Matplotlibを用いたデータの可視化 11.NumPyを用いた数値演算処理 12.TKinterを用いたGUIアプリの開発 13. 総合的なアプリの作成演習1 14. 総合的なアプリの作成演習2 15. 理解度（達成度）の確認および解説
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：火曜日3時限目	山澤 一誠	情報工学部 情報工学科 教授	
人工知能基礎	概要	講義内容		授業外学習
	最近では多くの分野で人工知能が利用されるようになってきています。人工知能は知能の原理を解明し、コンピュータ上に知能を実現することを目的にした学問分野です。また、より親しみやすいコンピュータやインターネットを実現したいという実社会からのニーズにも応えようと研究が進められています。この講義では、人工知能の幅広い基礎知識を身につけます。	1. 講義の進め方、人工知能の概要と歴史 2. 問題の状態空間表現と探索 3. 知能表現システム1 4. 知能表現システム2 5. 知能表現システム3 6.Prolog、ファジィ論理、単調論理、非単調論理、サーカムスクリプション、模相論理		7.多様な知識メディアの知的処理 8. 推論 9. 機械学習 10. ニューラルネットワーク 11. 進化的計算 12. 知的エージェント 13. 人工知能と社会 14. 試験 15. 試験の解説
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：火曜日1時限目	※担当講師調整中	工学部 電子情報工学科 教授	

数理・データサイエンス・AIプログラム (P2)

本プログラムでは、数理・データサイエンスと初歩的なプログラミング及び人工知能の基礎を学び、修得した知識をビジネスや日常生活に活かすことを目指します。

提供科目と受講日		受講料	46,500円 ▶ 特別料金 23,250円
●AIデータサイエンス基礎（後期）オンデマンド配信  ●応用プログラミング（後期）対面講義 毎週月曜日 1時限目（9:00～10:30）  ●人工知能基礎（後期）対面講義 毎週火曜日 3時限目（13:00～14:30）	在籍期間	2026年9月～2027年2月（6か月間） ※後期授業開始日 2026年9月24日（木）	
	授業回数	各科目毎週1回90分間、計15回	
	募集人員	3名	出願期間：2026年7月15日～7月31日まで ※書類必着

提供科目詳細（講義内容等は2025年度のシラバスをもとに掲載しているため、変更となる場合があります）

AIデータサイエンス基礎	講義形式		講師	職位
	オンデマンド配信		白坂 正太	教養力育成センター 准教授
	概要	講義内容		授業外学習
応用プログラミング	本科目では、データサイエンスやAIの基礎的な概念やデータの収集・整理・分析方法を学び、情報に基づく意思決定の重要性を理解することを目的としています。データ活用がもたらす社会的な影響について倫理的な視点から考察することを通して、人間中心の適切な判断を行うための必要なリテラシーを身につけます。本講義はオンデマンド型で行い、毎回のレポートでその学習成果を確認していきます。	1. ガイダンス 2. 社会で起きている変化 3. 社会で活用されているデータ 4. データ・AIの活用領域 5. データ・AI活用のための技術（1） 6. データ・AI活用のための技術（2） 7. データ・AI活用の現場 8. データ・AI活用の最新動向		9. データを読む（1） 10. データを読む（2） 11. データを説明する 12. データを扱う 13. データ・AIを扱う上での留意事項 14. データを守る上での留意事項 15. まとめ
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：月曜日1時限目	松木 裕二	工学部 電子情報工学科 教授	
人工知能基礎	概要	講義内容		授業外学習
	本講義では、Pythonについて学びます。Pythonはデータの可視化を含む高機能なモジュールを利用できる利点から、データ分析や機械学習の分野など近年数多くの分野で利用されています。講義の前半では、まずLinux OSの基礎知識として、基本コマンド、ユーザー管理、ファイル操作、アクセス権の変更などについて学びます。後半では、Linux OS上でPython言語の基礎的な文法、NumPyを用いた計算処理、matplotlibを用いたデータの可視化について学びます。	1.Linuxについて1 2.Linuxについて2 3.Linuxについて3 4.Linuxについて4 5.Linuxについて5 6.理解度（達成度）の確認および解説 7.Pythonの基礎1 8.Pythonの基礎2		9.Pythonの基礎3 10.Matplotlibを用いたデータの可視化 11.NumPyを用いた数値演算処理 12.TKinterを用いたGUIアプリの開発 13. 総合的なアプリの作成演習1 14. 総合的なアプリの作成演習2 15. 理解度（達成度）の確認および解説
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：火曜日3時限目	山澤 一誠	情報工学部 情報工学科 教授	
AIデータサイエンス基礎	概要	講義内容		授業外学習
	現代の情報社会を支える半導体はディスクリート素子としてだけではなくICのように集積化して用いられます。本講義前半ではICの構成素子とその基本構造について学び、それを製作するプロセス（前工程）で用いられる技術についてその概要を理解することを目的とします。後半ではCMOS論理回路とメモリの基本について学び、様々なメモリ素子の原理について学びます。また従来のエレクトロニクスとは異なるテクノロジに基づく、スピントロニクス、量子エレクトロニクス、超伝導エレクトロニクスの一端に触れることを目的とします。	1. 論理回路の設計と複合論理回路 10. メモリ1 11. メモリ2 12. スピントロニクス 13. 量子エレクトロニクス 14. 超伝導エレクトロニクス 15. 後半の理解度確認テスト		1. 授業後に課す課題（宿題）への解答。課題はFIT-AIMを用いて課します。形式等は課題ごとに指示します。解説は次回の講義の初めに行います。2. 講義中に説明しなかった概念については授業外学修（自習）として課題に出題するものがあります。インターネットによる検索や図書館での文献調査を含めた自習を行い課題に取り組んでください。これらの準備には毎週2時間程度を要します。
	講義形式	講師	職位	
	対面講義：月曜日1時限目	※担当講師調整中	工学部 電子情報工学科 教授	

myFIT（Web型学習支援システム）：授業資料ダウンロード、課題・レポート提出、履修登録など、講義で活用します。





# 環境理工学及び環境社会学プログラム (P3)

本プログラムでは、環境に関する理工学及び経済・社会学の基礎を学び、身近な環境問題を多面的に考察する環境コンシャスを身につけることを目指します。

## 提供科目と受講日

- 環境科学総論（後期） 対面講義 毎週火曜日 1時限目（9:00～10:30）
- 環境経済学（後期） 対面講義 毎週水曜日 3時限目（13:00～14:30）
- 環境社会学（後期） 対面講義 毎週木曜日 3時限目（13:00～14:30）

受講料 39,500円 ▶ 特別料金 19,750円

在籍期間 2026年9月～2027年2月（6か月間）  
※後期授業開始日 2026年9月24日（木）

授業回数 各科目毎週1回90分間、計15回

募集人員 3名

出願期間：2026年7月15日～7月31日まで ※書類必着

## 提供科目詳細（講義内容等は2025年度のシラバスをもとに掲載しているため、変更となる場合があります）

環境科学総論	講義形式		講師	職位
	対面講義：火曜日1時限目		久保 裕也	工学部 生命環境化学科 准教授
	概要	講義内容		授業外学習
	どのような分野に進もうと環境問題は避けては通れない時代になりました。「風が吹けば桶屋が儲かる」世の中で起こる全てのことが環境と関係するため、学問領域に明確な境界はなく、学ぶことに限りはありません。この講義では環境汚染、資源、エネルギー、廃棄物、生態系、リサイクル、浄化、社会システム、国際関係、法律など多様な視点から環境問題を俯瞰し、あらゆることを環境と結び付けて考える基盤をつくります。	1. 概論：環境とは何か？ 2. エネルギー 1 3. エネルギー 2 4. エネルギー 3 5. 農業 6. 食料問題 7. 環境汚染 8. 廃棄物 9. リサイクル 10. 3R 11. 地下資源 12. 地球温暖化 13. LCA 14. SDGs 15. まとめ		今回の講義の授業内容のトピックスについて、事前調査を行ってください（60分）。  講義を復習し、理解できなかった部分、深めたいことを調査してください（120分）。
環境経済学	講義形式		講師	職位
	対面講義：水曜日3時限目		鄭 雨宗	社会環境学部 社会環境学科 教授
	概要	講義内容		授業外学習
	受講生は、地球環境問題に対する政治経済的アプローチを通じて、国際議論の背景を探るとともに、地球温暖化問題と国際競争力との関係を明確に理解することができます。具体的には地球温暖化問題の主たるプレーヤーであるEUと米国、そして途上国の COP（締約国会議）での利害関係とともに国境税調整によるグローバルな経済・環境影響を定量分析を利用して理解することができます。	1. 地球温暖化問題の政治経済的アプローチ 2. 公共財の特徴と外部性 3. 環境政策手段の基礎理論 4. IPCC 評価報告書 5. 地球温暖化議論と評価 6. 中間レポート（1） 7. 中間レポート（2） 8. EUの国際競争力と地域連携の特徴 9. 中国の経済発展と環境問題 10. 戦略的貿易措置と環境 11. 国境税調整の国際環境影響効果 12. 排出権取引制度の実態とEUETSの課題 13. CDMスキームの理念と運用上の多様性 14. ポスト京都と新たなCDMスキームの構築 15. 授業内容の理解度テストおよび解説まとめ		毎回の授業内容の復習と次回内容をmyFITからダウンロードし予習を行ってください。4時間分の学習が求められます。
環境社会学	講義形式		講師	職位
	対面講義：木曜日3時限目		陳 艶艶	社会環境学部 社会環境学科 准教授
	概要	講義内容		授業外学習
	本講義では、環境社会学の代表的な理論枠組みを勉強した上で、今日起きている多種多様な環境問題を取り上げ、人々の環境に対する意識と行動を中心に、環境問題の形成メカニズムと現代社会との関連を探索します。	1. イントロダクション 2. 環境問題の歴史と環境社会学の成り立ち 3. 環境問題の社会学（1） 4. 環境問題の社会学（2） 5. 環境共存の社会学 6. 環境運動の社会学 7. 環境とSDGs、中間テスト 8. 環境意識の概念と特徴 9. 環境意識の研究事例 10. 環境意識と環境配慮行動 11. 環境配慮行動の研究事例 12. 環境意識の計量分析（1） 13. 環境意識の計量分析（2） 14. 復習及び課題発表 15. まとめと全体総括		240分：ほぼ毎回課題を課します。授業前には、myFITに掲示された記述問題について情報を収集し、自らの考えをまとめておいてください。授業後は、配布資料および自身のノートを活用しながら復習を行い、課題を完成させてください。



お問い合わせ

**FIT** Fukuoka Institute of Technology  
**福岡工業大学**

社会連携センター（本部棟1階）

〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東3-30-1  
TEL：092-606-7089（営業日：平日9:00～17:00）

E-MAIL：ccc-office@fit.ac.jp  
WEBサイト：https://www.ccc.fit.ac.jp/